

1. 病床利用率(回復期リハビリテーション病棟)

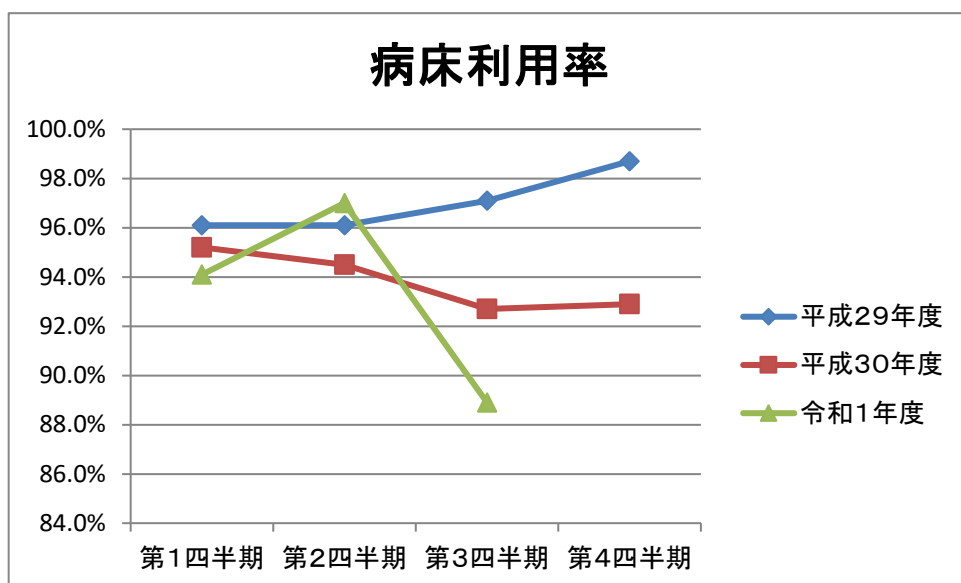
病床利用率は、平均在院日数とともに病院の経営管理状態を示す指標の1つです。経営管理という視点からみると、病院にはヒト、モノ、カネが投資されていて、それらがどの程度効率的に活用されているのかわかる必要があります。もう一つの視点としては、病院のスタッフが入院患者のケアにどれくらい熟練しているのかわかるための指標ともなります。

病床利用率とは稼働病床数に対し、実際に入院患者がどのくらいの割合で入院していたかを示す指標です。

$$\text{式) 病床利用率} = \text{入院患者延べ数} \div \text{延べ稼働病床数} \times 100 (\%)$$

※入院患者延べ数 = 在院患者延べ数 + 退院患者数(死亡数を含む)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	96.1%	96.1%	97.1%	98.7%	97.0%
平成30年度	95.2%	94.5%	92.7%	92.9%	93.8%
令和1年度	94.1%	97.0%	88.9%		



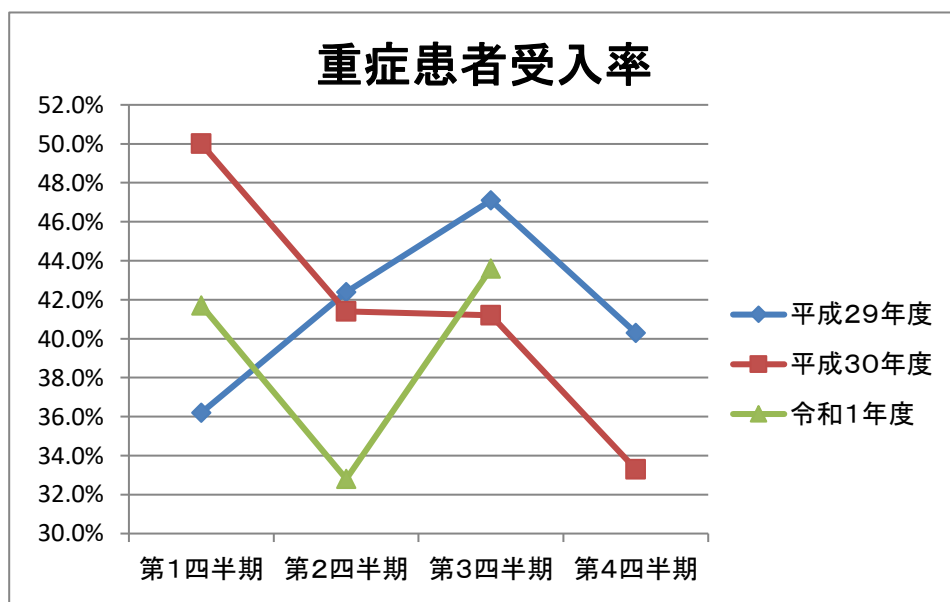
2. 重症患者受入率

新入院患者数に占める重症患者数の割合を示します。

$$\text{式) 重症患者受入率} = \text{重症患者数} \div \text{新入院患者数} \times 100 (\%)$$

※重症患者とは、入院時の日常生活自立度が10点以上の患者さんをいう。

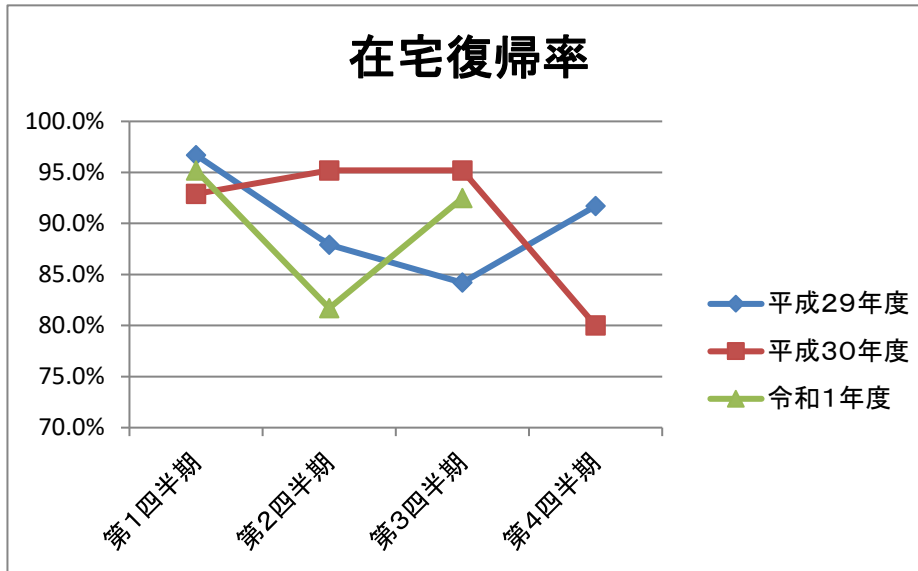
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	36.2%	42.4%	47.1%	40.3%	41.5%
平成30年度	50.0%	41.4%	41.2%	33.3%	41.4%
令和1年度	41.7%	32.8%	43.6%		



3. 在宅復帰率

退院患者のうち、自宅・施設等に退院した患者の割合を示します。
 式)在宅復帰率=在宅復帰数÷退院患者数×100(%)

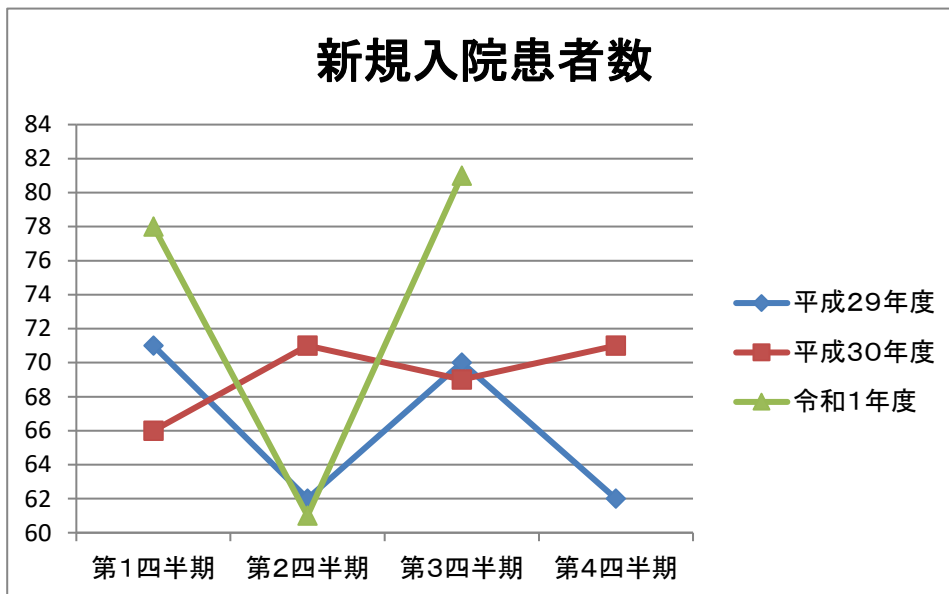
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	96.7%	87.9%	84.2%	91.7%	90.3%
平成30年度	92.9%	95.2%	95.2%	80.0%	90.8%
令和1年度	95.2%	81.7%	92.5%		



4. 新規入院患者数(回復期リハビリテーション病棟)

該当期間新たに入院された患者数です。
 ※再入院患者は除く、回復期リハ対象外患者は含む

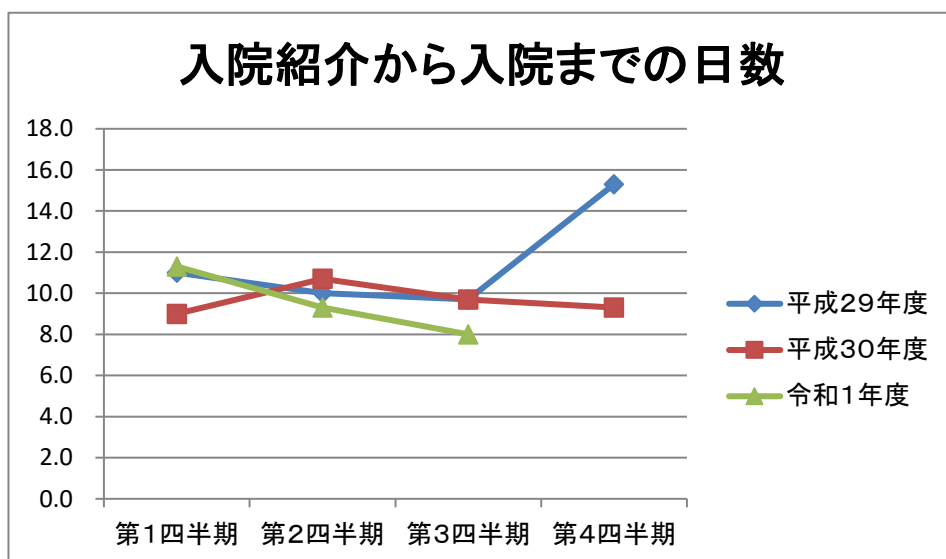
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
平成29年度	71	62	70	62	265
平成30年度	66	71	69	71	277
令和1年度	78	61	81		220



5. 入院紹介から入院までの日数(回復期リハビリテーション病棟)

他の医療機関より転院のご紹介をいただいてから患者様が当院に入院されるまでの平均日数(待機日数)です。

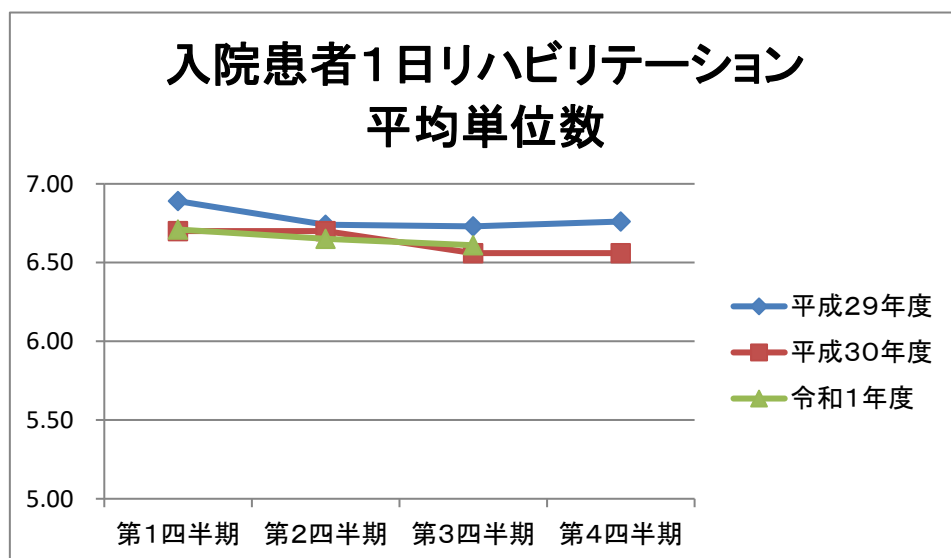
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	11.0	10.0	9.7	15.3	11.5
平成30年度	9.0	10.7	9.7	9.3	9.7
令和1年度	11.3	9.3	8.0		



6. 入院患者1日リハビリテーション平均単位数(回復期リハビリテーション病棟)

入院患者1人あたりに行う1日のリハビリテーション実施単位数の平均を示します。
 式)入院患者1日リハビリテーション平均単位数=総合単位数÷総合人数 (単位)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	6.89	6.74	6.73	6.76	6.78
平成30年度	6.70	6.70	6.56	6.56	6.63
令和1年度	6.71	6.65	6.61		

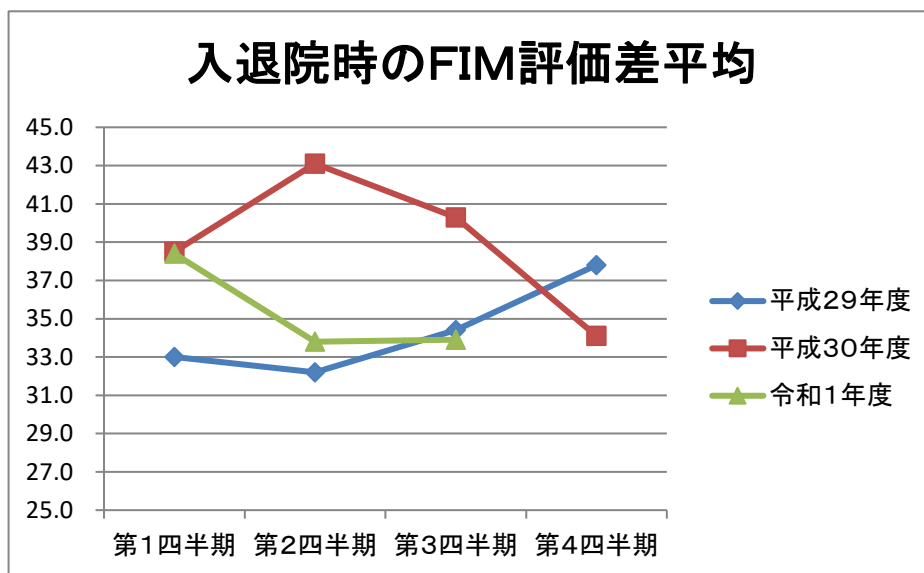


7. 入退院時のFIM評価差平均(FIM利得)

入院時のFIMと退院時のFIMの得点差の平均を示します。一般に、この値が大きいほど患者の状態がより改善したといえます。

式)入退院時のFIM評価差平均＝退院患者のFIM評価差合計÷退院患者数
 ※FIM(functional independence measure)＝機能的自立度評価法

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	33.0	32.2	34.4	37.8	34.3
平成30年度	38.5	43.1	40.3	34.1	38.8
令和1年度	38.4	33.8	33.9		

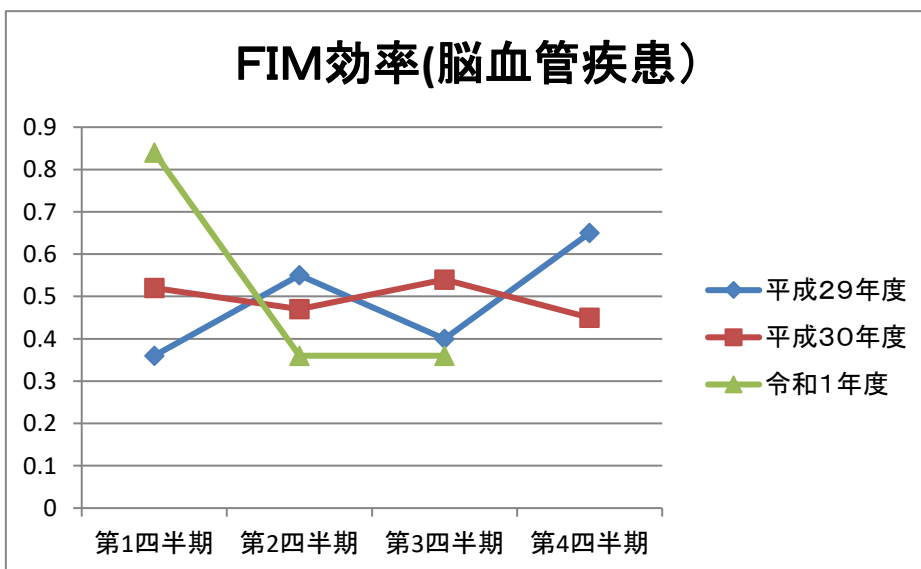


8-1. FIM効率(脳血管疾患)

リハケア効果を入院1日当たりであらわしたもので、点が高いほど短い期間でリハやケアの高い効果が表れた(リハやケアの効率が高い)といえます。

式)FIM効率＝FIM利得÷入院日数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	0.36	0.55	0.40	0.65	0.49
平成30年度	0.52	0.47	0.54	0.45	0.50
令和1年度	0.84	0.36	0.36		

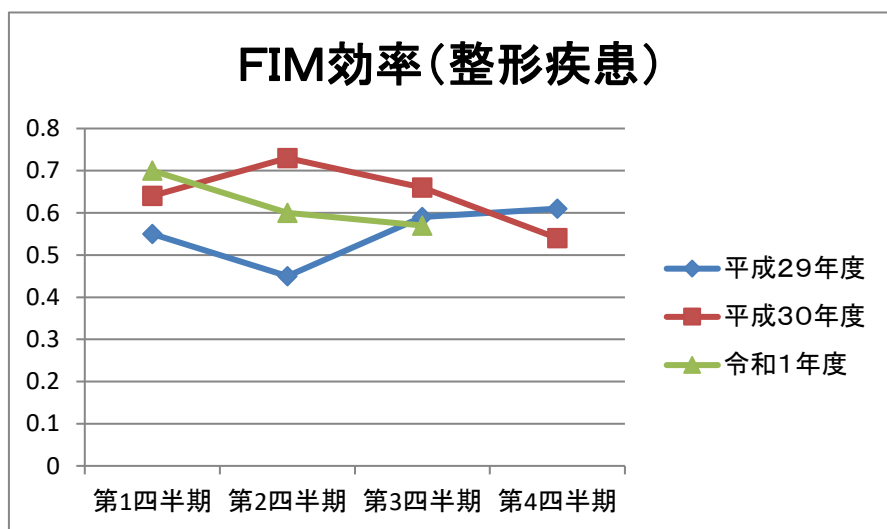


8-2. FIM効率(整形疾患)

リハケア効果を入院1日当たりであらわしたもので、点が高いほど短い期間でリハやケアの高い効果が表れた(リハやケアの効率が高い)といえます。

式) FIM効率 = FIM利得 ÷ 入院日数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	0.55	0.45	0.59	0.61	0.55
平成30年度	0.64	0.73	0.66	0.54	0.64
令和1年度	0.70	0.60	0.57		



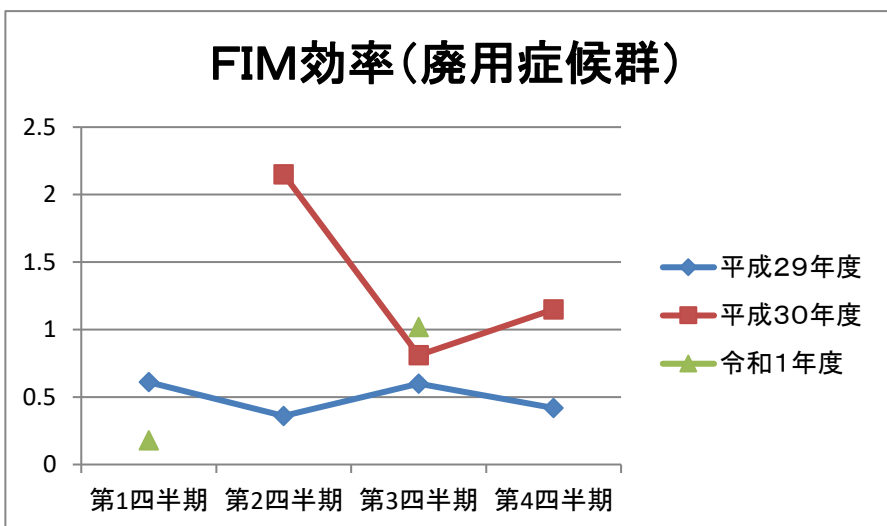
8-3. FIM効率(廃用症候群)

リハケア効果を入院1日当たりであらわしたもので、点が高いほど短い期間でリハやケアの高い効果が表れた(リハやケアの効率が高い)といえます。

式) FIM効率 = FIM利得 ÷ 入院日数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	0.61	0.36	0.60	0.42	0.54
平成30年度		2.15	0.81	1.15	1.56
令和1年度	0.18		1.02		

※表空白は該当患者なし

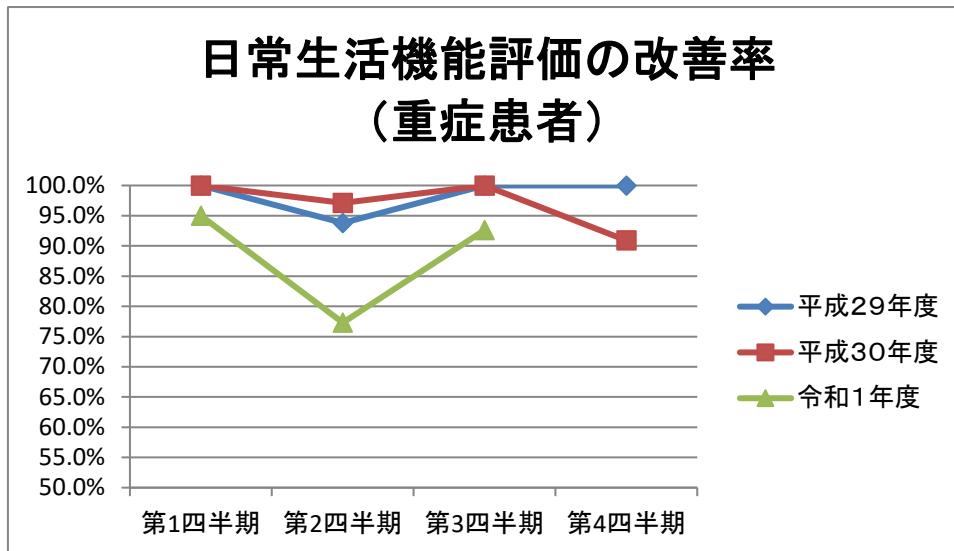


9. 日常生活機能評価の改善率(重症患者)

重症患者のうち、退院時の自立度が入院時より4点以上改善した患者の割合を示します。

式) 日常機能改善率 = 日常機能(4点以上)改善者数 ÷ 重症患者数 × 100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
平成29年度	100.0%	93.8%	100.0%	100.0%	98.9%
平成30年度	100.0%	97.1%	100.0%	90.9%	97.2%
令和1年度	95.0%	77.3%	92.6%		



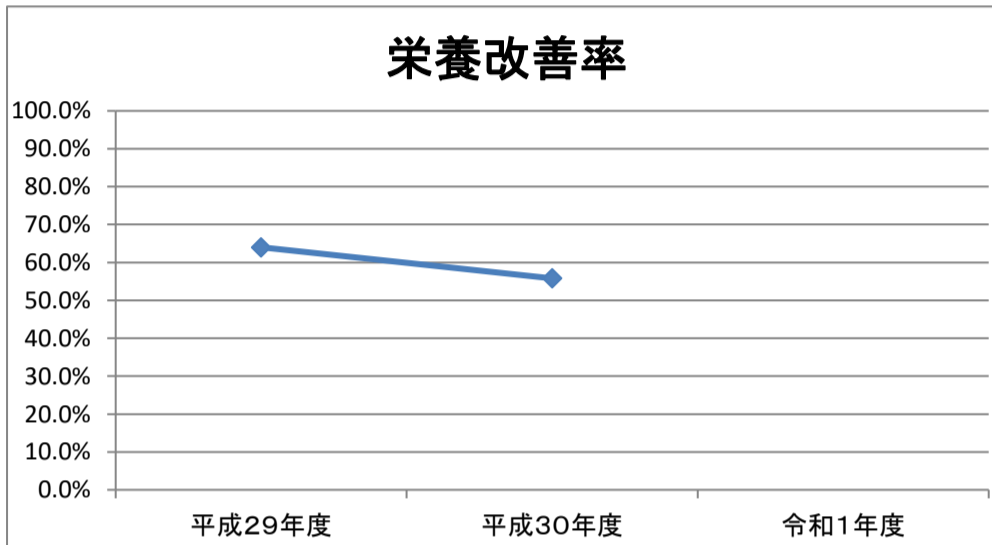
10. 栄養改善率(回復期リハビリテーション病棟)

当院では、全ての治療法の基盤である栄養管理の重要性を病院全体に根付かせること、また、治療やリハビリテーションの効果が上がる正しい栄養管理を実践することを目的として栄養不良者を対象に週1回、NSTラウンドを行っています。

※NST=nutrition support team(栄養サポートチーム)の略。医療機関で患者さまの栄養管理を行う専門組織です。医師・看護師・管理栄養士・リハビリテーション部門等、様々な職種が参加し、患者さまの栄養状態の把握や栄養剤投与方針の決定などを行います。

式) 栄養改善率 = 栄養状態改善者 ÷ 栄養不良者(NST介入者) × 100 (%)

	平成29年度	平成30年度	令和1年度
栄養改善率	64.0%	55.8%	



11. 経口摂取移行率(回復期リハビリテーション病棟)

経口摂取(口から食べる)には栄養・水分補給だけでなく、食べるという行為が楽しみや癒しにつながり、QOL(quality of life=生活の質)を向上させるというメリットがあります。

当院のNST連携チームのひとつに摂食嚥下チームがあり、摂食嚥下障害を持つ患者さまに適切な訓練を実施し、経口摂取を可能にすること、全身状態の回復とQOLの向上を図ることを目的に活動しています。

式) 経口摂取移行率 = 経口摂取移行患者数 ÷ 摂食嚥下障害を持つ患者数(摂食嚥下チーム介入者) × 100 (%)

	平成29年度	平成30年度	令和1年度
経口摂取移行率	100.0%	66.7%	

